

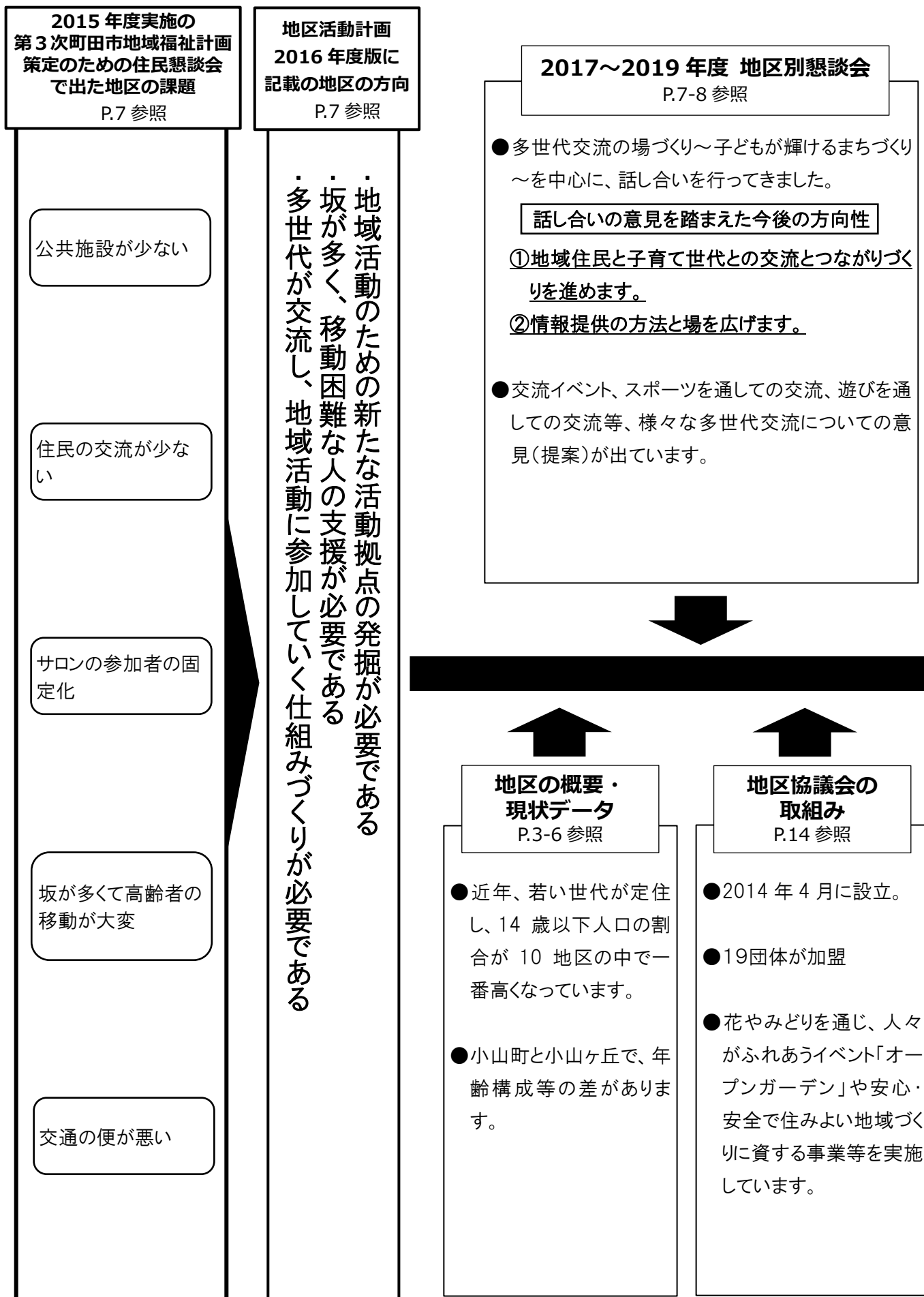
小山地区 基礎資料



2022 年度 町田市地区別懇談会

基礎資料につきましては、開催日当日に使用する資料ではありません。
ご参加いただく皆様に事前にお目通しいただけるよう、地区の概況を
まとめた資料となっております。

1. 過去5年間の取組み等を踏まえた地区のまとめ



**2020 年度
地区別アンケート**
P.9-12 参照

**子育て支援を利用しない理由
について**

- 支援を受ける場所が近くにな
い、支援の情報が少ないとい
ったことが挙げられています。

**アンケート結果を踏まえた
今後の方向性**

- 親子向けイベントの開催に
向け地域住民みんなで考
えていきます。
- 子育てスポットが多くの世
帯に活用されるように PR
方法を工夫していきます。

**5年間を通して
生まれた取組み**
P.13 参照

- 地区別懇談会の話し合
いを踏まえた、親子向け
イベントや子育て世代へ
の情報提供の検討が始
まっています。

**タウンミーティング
の結果** P.20-21 参照

**住みたい(なりたい)
まちの姿について**

- 「子どもどうして交流でき
る場がほしい」や「多世
代、多様な人と交流でき
る場」といった意見が多
くなっています。

**過去 5 年間の取組み等を踏まえ
見えてきたこと**

**①子育て支援につながる多世代交流・つ
ながりづくりの具体化**

- ・ 地区別懇談会では、交流イベント、スポー
ツを通しての交流、遊びを通しての交流
等、様々な多世代交流についての意見
(提案)が出ています。
 - ・ 5年間を通して、14 歳以下の子どもの割合
が 10 地区の中で一番高くなっています。
 - ・ タウンミーティングでは、「子どもどうして交
流できる場がほしい」や「多世代、多様な
人と交流できる場」といった意見が多くなっ
ています。
- 以上のことから、子育て支援につながる多
世代交流・つながりづくりの具体化が重要と
考えられます。

**②子育てスポットのPR・情報提供方法の
工夫**

- ・ 地区別アンケートでは、子育て支援を利用
しない理由について、支援の情報が少ない
ことが挙げられています。
 - ・ 市民アンケート調査でも、住民同士の協力
関係のために必要なこととして、4割以上
の方が「地域の情報を手軽に得られるこ
と」を挙げています。
- 以上のことから、子育てスポットのPR・情
報提供方法の工夫を更に促進することが
重要だと考えられます。

市民アンケート調査
P.15-19 参照

- 住民同士の協力関係が必要と考える人の割合は市全体より
高くなっています。そのために必要なこととして、4割以上
の方が「地域の情報を手軽に得られること」を挙げています。
- 地域の暮らしやすさについては、「隣近所などのおつきあ
い」、「町内会・自治会の活動」で満足度が全体より高くな
っています。
- 小山地区は、市内で最も 14 歳以下の年少人口が多い地
区であり、2世代世帯、3世代世帯も多くなっています。

2. 地区の概要・現状データ

<小山地区の該当町名>

小山ヶ丘 1～6 丁目、小山町

(1) 5年間の地区の変化と市全体との比較

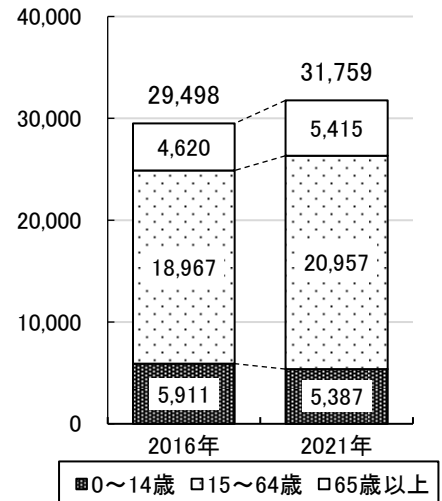
<5年間の地区の変化>

- 地区内総人口の増加 (P.4「地区内総人口」参照)
- 世帯数の増加 (P.4「世帯数」参照)
- 要介護認定者数の増加 (P.4「要介護認定者数」参照)

<町田市全体との比較>

- 市全体より0～64歳人口の割合が高く、65歳以上人口の割合が低い (P.4「人口」参照)
- 町内会・自治会連合会加盟団体への世帯加入率は、小山地区が低い。 (P.4「町会・自治会」参照)

地区別人口の変化



(2) 小山地区の概要

<人口> (2021年10月1日現在)

- 31,759人
(14歳以下の割合：17.0%、65歳以上の割合：17.1%)

<特徴>

- 歴史ある社寺や郷土芸能、豊かな自然が残る一方で、近年の整備で子育て世代を中心に若い世代が定住し、14歳以下人口の割合が10地区の中で一番高い。
- 小山町と小山ヶ丘で、年齢構成や居住年数等の差がある。
- 高低差が激しく、高齢者等にとっては地区内での移動が困難な場合がある。

<主な資源>

- | | |
|------------------|-------------------|
| ・ 駅：1 駅 (多摩境駅) | ・ 高校・大学：高校 1 校 |
| ・ 高齢者支援センター：1 か所 | ・ あんしん相談室：1 か所 |
| ・ 子どもクラブ：1 か所 | ・ 障がい者支援センター：1 か所 |

(3) 小山地区の現状データ

		小山地区		町田市全体	
		2016年度	2021年度	2016年度	2021年度
人口	地区内総人口	29,498人	31,759人	428,203人	430,607人
	0～14歳	5,911人 (20.0%)	5,387人 (17.0%)	55,977人 (13.1%)	51,516人 (12.0%)
	15～64歳	18,967人 (64.3%)	20,957人 (66.0%)	261,697人 (61.1%)	262,247人 (60.9%)
	65歳以上	4,620人 (15.7%)	5,415人 (17.1%)	110,528人 (25.8%)	116,844人 (27.1%)
	75歳以上（再掲）	1,907人 (6.5%)	2,645人 (8.3%)	53,117人 (12.4%)	63,573人 (14.8%)
世帯	世帯数	11,402世帯	12,236世帯	192,005世帯	202,737世帯
	世帯あたり人口	2.58人	2.46人	2.23人	2.12人
要介護認定者数	要支援1	95人	141人	2,773人	4,170人
	要支援2	58人	84人	2,057人	2,500人
	要介護1	148人	214人	4,327人	5,435人
	要介護2	111人	130人	3,398人	3,411人
	要介護3	90人	99人	2,394人	2,734人
	要介護4	71人	124人	2,224人	2,841人
	要介護5	101人	91人	2,057人	2,131人
	合計	674人	883人	19,230人	23,222人
	参考：要介護認定率 ※1	14.6%	16.3%	17.4%	19.9%
認知症高齢者数 ※2		380人	285人 ※5	10,040人	7,286人 ※5
障がい者数 ※3	身体障がい	529人	584人	11,808人	11,544人
	知的障がい	185人	232人	3,117人	3,253人
	精神障がい	150人	252人	3,698人	5,378人
	合計	864人	1,068人	18,623人	20,175人
	人口に占める割合	2.9%	3.4%	4.3%	4.7%
町内会・自治会 ※4・	団体数	16	15	226 (309)	220 (310)
	加入世帯数	4,933世帯	4,481世帯	89,566世帯 (103,595世帯)	83,872世帯 (98,255世帯)
	加入率	43.7%	36.2%	47.0% (54.3%)	41.6% (48.8%)

○人口、世帯数：各年10月1日現在（住民基本台帳に基づく）

○要介護認定者数、認知症高齢者数：各年10月1日現在

○障がい者数：2016年は10月17日現在／2021年の身体・知的は10月1日現在、精神は2月7日現在（実績値）

○町内会・自治会：4月1日現在

◆備考◆

※1 要介護認定率は参考数値（要介護者数に64歳以下も含むため）

※2 要支援1～要介護5を持つ方のうち、日常生活自立度Ⅱ以上の方

※3 障害者手帳の所持数

※4 町田市町内会・自治会連合会に加盟している団体数（ ）内は非連合を含めた値

※5 2021年の認知症高齢者数は、新型コロナウイルス感染症の特例で、介護度をそのまま1年延長している方は主治医意見書が提出されていないことと、認定調査を実施していないため、前年よりも認定者数が少ない数値となっています。

3. 地区資源マップ



【地区資源リスト】

●子ども・子育て関係の施設(■)

<保育園>

- 1 小山保育園
- 2 多摩境敬愛保育園
- 3 サンフィール保育園(本園)
- 4 サンフィール保育園(分園)
- 5 かえで保育園
- 6 もみの木保育園
- 7 敬愛桃の実保育園
- 8 かりん保育園

<幼稚園>

- 9 町田すみれ幼稚園
- 10 町田サレジオ幼稚園

<小規模保育事業所>

- 11 プチもり保育園

<家庭的保育室(保育ママ)>

- 12 プチコパン保育室
- 13 ティンクほいくしつ
- 14 家庭的保育室種まく人

<認証保育所>

- 15 町田多摩境雲母保育園

<学童保育クラブ>

- 16 小小学童保育クラブ
- 17 小山中央学童保育クラブ
- 18 小山ヶ丘学童保育クラブ

<子どもセンター・子どもクラブ>

- 19 子どもセンターぱお分館 WAAAO
- 20 小山子どもクラブ「さん」

●高齢者・介護保険関係の施設(●)

<相談>

- 1 堺第2 高齢者支援センター
- 2 小山あんしん相談室

<特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)>

- 3 美郷
- 4 花美郷

<介護老人保健施設>

- 5 ふれあいの町田

<有料老人ホーム(特定施設)>

- 6 湘南ふれあいの園 シニアレジデンス町田
- 7 ツクイ・サンシャイン町田西館
- 8 ツクイ・サンシャイン町田東館
- 9 老人ホーム多摩境
- 10 SOMPOケア ラヴィーレ町田小山

●障がい者・福祉関係の施設(▲)

<障がい者支援センター>

- 1 堺地域障がい者支援センター

<計画相談支援>

- 2 相談支援センターさくら

<共同生活援助(グループホーム)>

- 3 グループホーム さちあかり A 棟
- 4 グループホーム さちあかり B 棟
- 5 グループホーム さちあかり C 棟

●ふれあいサロン・子育てサロン(♥)

<ふれあいサロン>

- 1 ふれあいサロン小山
- 2 ふれあいサロンさくら
- 3 おしゃべりサロン楽々

<子育てサロン>

- 4 Hitoiki time

【資源マップ上記載の凡例】

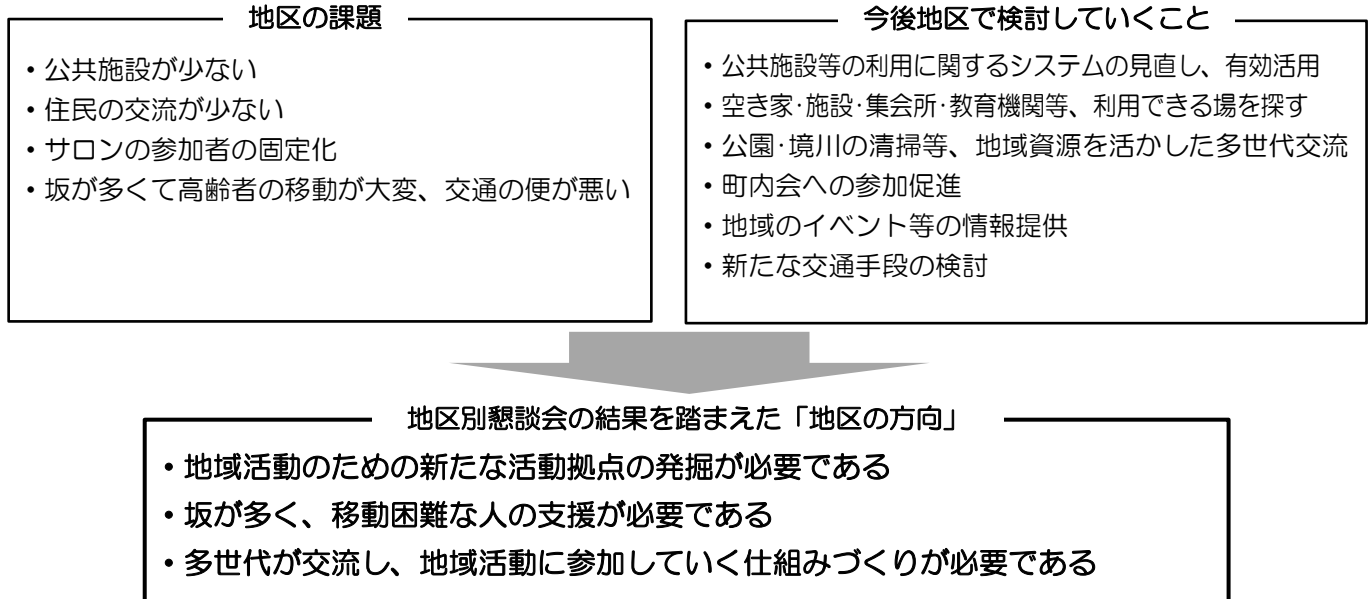
●教育施設(◆)

●その他の公共施設(◎)

4. 地区別懇談会の経過

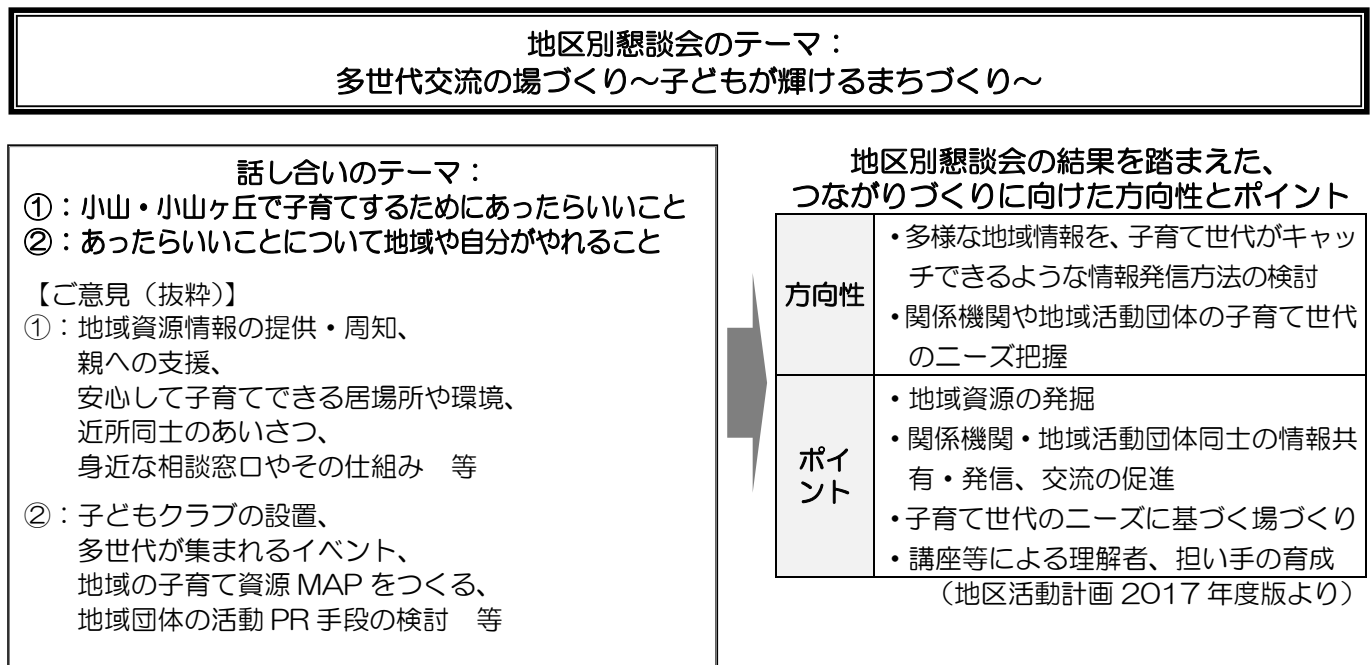
(1) 小山地区 地区別懇談会

① 第3次町田市地域福祉計画策定のための住民懇談会（2016年1月）



※ 2017年度以降、第3次町田市地域福祉計画、町田市社会福祉協議会の第四次地域福祉活動計画に基づいて、市内10地区で地区別懇談会を開催しています。

② 2017年度 地区別懇談会



③ 2018 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ： 多世代交流の場づくり～子どもが輝けるまちづくり～

話し合いのテーマ：

- ①：子育て世代を支援するにあたって、地域でできること
②：「交流」をどのように進めるか

【ご意見（抜粋）】

①：【交流】

子ども会の活性化、地域とスポーツクラブの連携、
つながりのきっかけづくり 等

【あずかり】

既存の場所の活用、人材の活用 等

【情報】

関係機関への情報集約、SNS等の活用 等

【相談】

子育て経験者による相談 等

【全体】

近所づきあい、声かけ

②：【交流の機会づくり】

地縁団体による交流 等

【担い手】

担い手の養成、担い手への支援 等

【場所】

子どもクラブの活用 等

【情報】

町内会・自治会での情報交換 等

地区別懇談会の結果を踏まえた、 今後の方向性と具体的取組み

方向性	・地域住民と子育て世代との交流 ・情報提供の場を広げる
具体的取組み	・地区別懇談会を使った地域住民と子育て世代との交流と顔の見えるつながりをつくる ・「子どもクラブ」にて異世代交流についての検討を行う ・子育て世代が多い地域へのSNS発信等 (地区活動計画 2018 年度版より)

2018 年度の地区別懇談会に先駆け、「子どもセンターばお」が開催する親子向けイベントの参加者に「地域にあると良い子育て支援」についてヒアリングを行いました。

①の話し合いはヒアリングの結果から5つのテーマについて話し合っていたいただき、②ではより深く話し合いたいテーマを1つ選んでいただき、話し合いを行いました。

③ 2019 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ： 多世代交流の場づくり～子どもが輝けるまちづくり～

話し合いのテーマ：

小山の子育て世代向けにあったらいいなと
思うもの（テーマ：多世代交流）

【ご意見（抜粋）】

- ・交流：交流・イベント、スポーツを通しての交流、遊びを通しての交流、既存の行事等を活用・発展、シニアの力を借りる、読み聞かせを通して交流、料理を通しての交流、畑を通しての交流 等

・場所

・スポーツを通しての交流

・つながりを強化する

・アプローチ

・地域資源の活用

・あいさつ

・見守り

地区別懇談会の結果を踏まえた、 今後の方向性と具体的取組み

方向性	・地域住民と子育て世代との交流とつながりづくりを進めます。 ・情報提供の方法と場を広げます。
具体的取組み	・小山・小山ヶ丘ネットワーク協議会の協力を得て、情報提供（発信）の検討を行います。 ・地区別懇談会で子育て世代との交流の場をつくりまします。

(地区活動計画 2019 年度版より)

2019 年度の地区別懇談会は、話し合いを行う前に「ラダーゲッター」、「ボッチャ」の2種類のニュースポーツ体験イベントを行い、体を動かしながら参加者同士の交流を深めていただきました。



⑤ 2020 年度 小山地区 小山地区の子育て支援についてのアンケート

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため 10 地区すべてで地区別懇談会の開催を中止し、地区ごとにアンケート調査を実施しました。

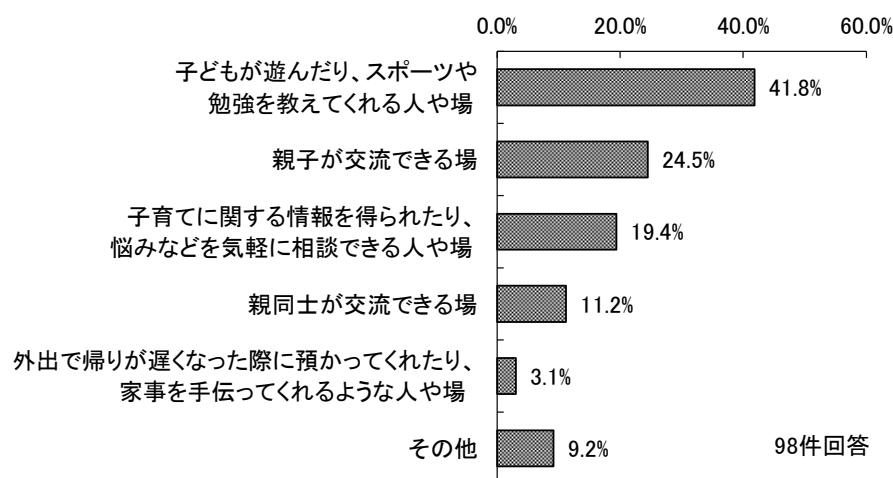
当アンケート調査では、これまでの地区別懇談会で話し合いを踏まえて、地区内の保育園・幼稚園に通う保護者の方を対象に、子育て支援等について尋ねました。

【小山地区の子育て支援について】

●地域の子育て支援で利用しているもの

「子どもが遊んだり、スポーツや勉強を教えてくれる人や場」が4割強となっています。

図表 地域の子育て支援で利用しているもの（複数回答）



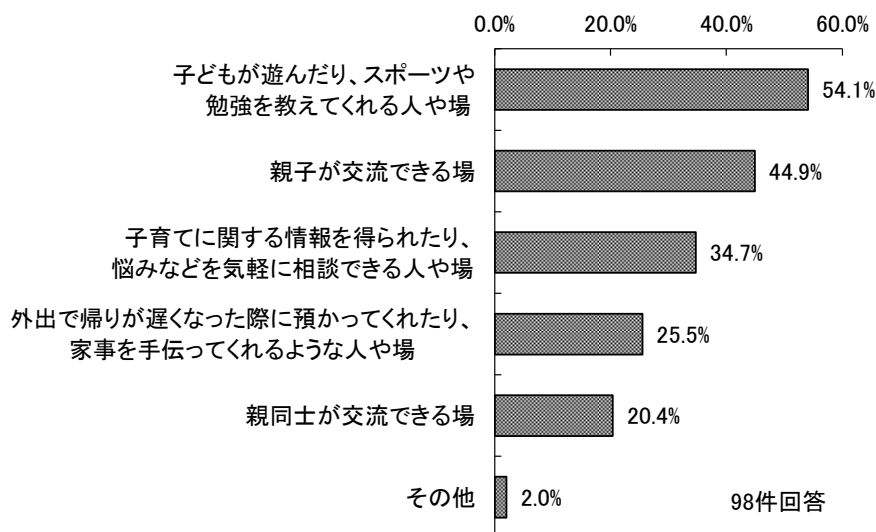
●地域の子育て支援で実際に利用しているもの（自由回答の抜粋）

- ・子どもセンターばお分館 WAAAO。
- ・小山子どもクラブ「さん」。
- ・堺地域子育て相談センター。
- ・保育園や幼稚園のイベントや園庭開放。
- ・保育園の子育てひろば。
- ・三ツ目山冒険遊び場。
- ・みつばち文庫。
- ・hitoiki time。
- ・放課後クラブ→学校での児童の放課後の遊びを見守る。
- ・ファミリーサポート。

●地域の子育て支援で知っているもの

「子どもが遊んだり、スポーツや勉強を教えてくれる人や場」が4割強となっています。

図表 地域の子育て支援で知っているもの（複数回答）



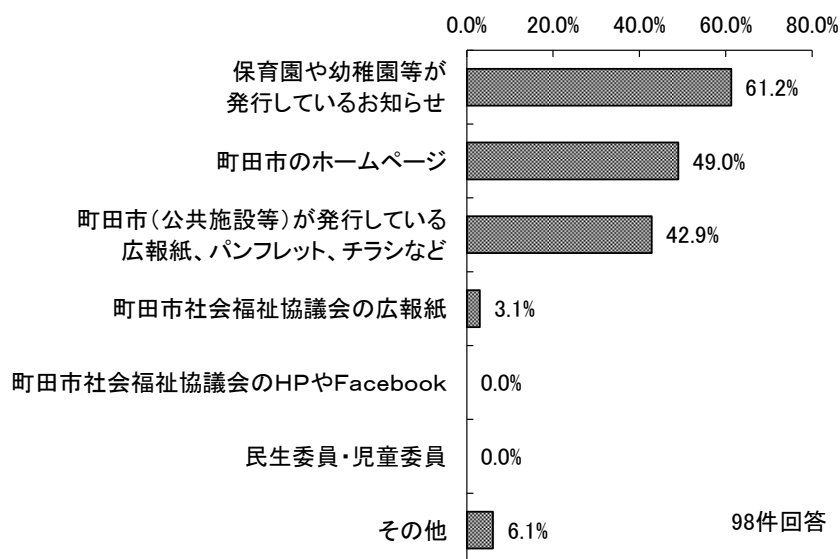
●具体的に知っているもの（自由回答の抜粋）

- ・市役所の担当部署への電話相談。
 - ・市民センターなどでの母子相談。
 - ・市民センター等のイベント。
 - ・保育コンシェルジュ。
 - ・ショートステイ、病児保育、病後児保育。
 - ・だーるまさん。
 - ・ひなたぼっこ。
 - ・市民館での0歳児の集まり、シルバーさんへの依頼。
- （上記の他に、実際に利用しているものと同様の回答が複数ありました。）

●地域の子育て支援情報の入手先

「保育園・幼稚園が発行しているお知らせ」が6割強となっています。

図表 地域の子育て支援情報の入手先（複数回答）



●子育て支援を利用しない理由（自由回答の抜粋）

<施設不足>

- ・町田駅周辺に集中しており、小山地区は利用できる施設が少ない。
- ・徒歩圏内に利用できるものがない。

<情報不足>

- ・費用面、情報がどこに載っているかわからない。
- ・情報が手に入りにくい。

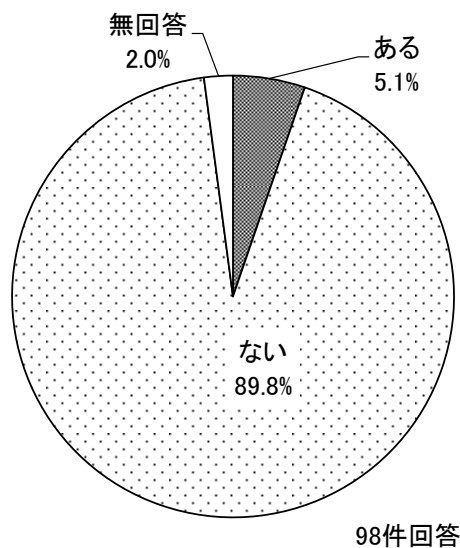
<その他>

- ・駐車場がないので頻繁には行きづらい。
- ・平日は仕事があるため、平日のプログラム等を利用できない。
- ・コロナ禍で屋内施設には行けていない。
- ・病児保育の利用が難しい

●オンラインでの交流や相談できる場の有無

9割弱がオンラインでの交流や相談の場が無いと回答しています。

図表 オンラインでの交流や相談できる場の有無



●具体的なオンラインでの交流や相談の場

（オンラインでの交流や相談の場があると回答した人）（自由回答）

- ・会社で案内のあった、オンライン産婦人科、助産師、子育て相談。
- ・友人のグループLINE。

●子育てをしている中であったらいいと思うもの（自由回答）

<相談支援>

- ・親だけで、ふらっと気軽に立ち寄れたり相談できる場所があれば良いと思う。
- ・オンライン 24 時間対応。→ふと一人になった時に考えることが多いので、主に子どもが就寝してから調べたり、悩む。22 時以降も気軽に相談できたり調べられるところ。
- ・子育て相談オンラインではなく、メールで。
- ・子育てに関する悩み相談サイトの Q/A が閲覧できるサイトが欲しい。

<情報提供>

- ・共働きの家庭がどの様に仕事と家庭と両立するのにファミリーサポートを利用しているのか知りたいです。
- ・年齢（学年）ごとで、保育園学童等の利用できるサービス、防犯や学校の情報、その年に接種する必要がある予防接種等、全ての必要な情報が一目でわかるように市ホームページを作成したり、登録した年齢に合わせて情報をメール配信してほしい。
- ・子育て世代が集まる地区独自の情報発信が必要に感じます。
- ・子どもが進む学校などの流れがわかりやすい一覧？がほしい。
- ・地域の小さな公園や遊び場の詳細な情報（遊具は何があるか、乳幼児でも安心して遊べるか、駐車場の有無やなければ近くのパーキングの場所など）が地域別の一覧になってたり、MAP から検索できると便利だと思います。
- ・予約が必要な子育てイベントや育児相談、身体測定などの予約方法を電話ではなく、ネット予約にしてほしいです。
- ・情報を必要としている人に必要な情報が行き渡るような工夫をしていただきたいです。
- ・地域の子育てについての情報が集約されている Web サイト。
- ・なかなかネットで探さないとわからない情報が目に見えると助かります。忙しいとゆっくりネットで探す時間も持てなかったりするため。
- ・オンラインでおすすめの公園や悩みなど投稿できる場があればいい。

<その他要望等>

- ・車じゃないと厳しい距離にしか児童館がないので駐車場があれば利用しやすい。
- ・土日親子で参加できる場があるといいなと思います。
- ・オンラインの親子ダンス教室など体を動かせるもの。
- ・子どもの送迎サービス。
- ・病児保育の利用がもっと簡単だといい。
- ・ママ友ができたのが子育て支援センターが主催している BP という講座だった。大体月齢も同じで、第一子の子育てに不安を抱えて丁度苦しい時期のママ同士が集まるので、悩みも共感しやすく、自然と 4 回の講座が終わっても関係が続けることができた。こういった講座、交流の場が身近にあると、地域に出て行けずひとりぼっちで子育てをしているお母さんが減るのではないかなと思う。”

アンケート結果を踏まえた今後の方向性・具体的取組み

方向性	・親子向けイベントの開催に向け地域住民みんなで考えていきます。 ・子育てスポットが多くの世帯に活用されるように PR 方法を工夫していきます。
具体的取組み	・地区別懇談会を使い、親子向けイベントの開催に向けて話し合いを行っていきます。

（地区活動計画 2020 年度版より）

(2) 5年間を通して生まれた取組み

- 小山地区では、小山・小山ヶ丘ネットワーク協議会の協力のもと「多世代交流の場づくり～子どもが輝けるまちづくり」をテーマに地区別懇談会を開催し、これまで子育て世代の支援のために、地域でできることは何かについて話し合いを行ってきました。
- 2018年度では地区別懇談会の実施に先駆け、「子どもセンターぱお」が開催する親子向けイベント「ばわばふたいむ」の参加者に「地域にあると良い子育て支援」をヒアリングし、子育て中の方たちから「思い」をたくさん伺いました。また、2019年度では、地区別懇談会の前半に話題のニュースポーツ「ラダーゲッター」と「ボッチャ」の体験イベントを行い、子どもも一緒になって参加者同士の交流を深めました。体が温まった後、「小山の子育て世代向けにあったらいいと思うもの」として「多世代交流」について話し合いを行い、開催方法を工夫しました。
- 多世代交流の取組みとして、介護予防サポーターと高齢者支援センター主催の読み聞かせ講座修了者による元気高齢者のボランティアグループが、絵本の読み聞かせや、布のおもちゃづくりをとおして、子育てのお手伝いをしています。保育園や小学校、子どもセンター、子どもクラブ等、様々な場所で活動しており、子どもたちの笑顔があふれる中、多世代のつながりを深めています。
- 小山・小山ヶ丘地域の子育て世代の支援のため、地域の子育て資源などについての情報提供の検討を行っています。2020年度は子育て世代向けにヒアリングによる実態把握を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、アンケート形式での実施となりましたが、地域の保育園にも協力いただき98件の回答をいただきました。
- 今後は、アンケート結果を踏まえながら、子育て資源がより多くの人に活用できるよう情報提供を行うとともに、併せて親子向けイベントを地域で開催できるよう検討していきます。



▲ 元気高齢者のボランティアグループによる絵本の読み聞かせ

5. 地区協議会の取組み

(1) 設立日・構成団体

＜設立日＞ ●2014年4月25日（市内1地区目） ＜構成団体＞ ●小山連合町内会（15町内会・自治会）、青少年健全育成小山地区委員会、堺地区民生委員児童委員協議会、町田市消防団第5分団、堺第2高齢者支援センター、小山あんしん相談室、町田市社会福祉協議会、町田市法人立保育園協会、町田市青少年委員、小山小学校、小山ヶ丘小学校、小山中央小学校、小山中学校、サレジオ高等専門学校、多摩美術大学、小山市民センターまつり実行委員会、町田消防署西町田出張所、まちだテクノパーク、小山子どもクラブ「さん」（19団体）
--

(2) 地区協議会のこれまでの主な取組み

事業名	概要	詳細（事業目的など）
ONW協議会広報事業	- PRパンフレット（広報紙）の作成 - SNS等による情報発信 - イベント等での活動PR	ONW協議会の活動をPRし、地域住民が主体となった街づくりの大切さについて認識を深め、住みよい小山・小山ヶ丘地区にするための活動に資する。
オープンガーデン広報事業	- スタンプラリーの製作 - オープンガーデン公開者募集チラシの製作 - PRパンフレットの作製 - ガーデン公開者の支援	花と緑にあふれた、美しい街の実現のための事業であるオープンガーデンを、広く広報する。オープンガーデンは、個人や企業、学校の庭などを公開することで、街の景観の向上、コミュニティの潤い、新旧住民のふれあいを深めることを目指している。
ふれあいを深める事業	- 施設を巡回し、子ども達に「ブックトーク」や「読み聞かせ」を行う「読み聞かせキャラバン」を実施 - 小山内裏公園ウォーキングコースでウォーキングを楽しむ「ふれあいウォーキング」のゴール地点で、各種イベントを実施。	本の楽しさや面白さ、奥深さを知ってもらい、読書の機会を増やすだけでなく、物事に対する興味の向上、また周りに対する感謝の気持ちを育て自分を成長させる機会をつくる。 また、ふれあいウォーキングで行ったイベントでは、子供から大人まで誰もが楽しめるイベントを行い、多世代の地域住民のふれあいを深める。
安全・安心な街づくり事業	- つながるフードドライブ - 子どもの見守り活動 - 高齢者見守り支援 - 啓発ポスターの制作 - 交通・防犯等の標語看板の制作 - 協議会名入ジャンパー製作 - 横断旗制作	地域住民が主体となった街づくりの大切さ、について認識を深め、安全・安心な住みよい街にするための活動に資する。 また、昨年度から実施している「つながるフードドライブ」では、地域密着の循環型社会形成を目指すとともに、防災月間（9月）に行うことで、家庭の備蓄用品の見直しや防災意識の向上を目指している。

6. 市民アンケート調査の地区別集計結果

（仮称）町田市地域ホッとプラン策定の基礎資料とするため、地域福祉に関する生活実態やご意見などを把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

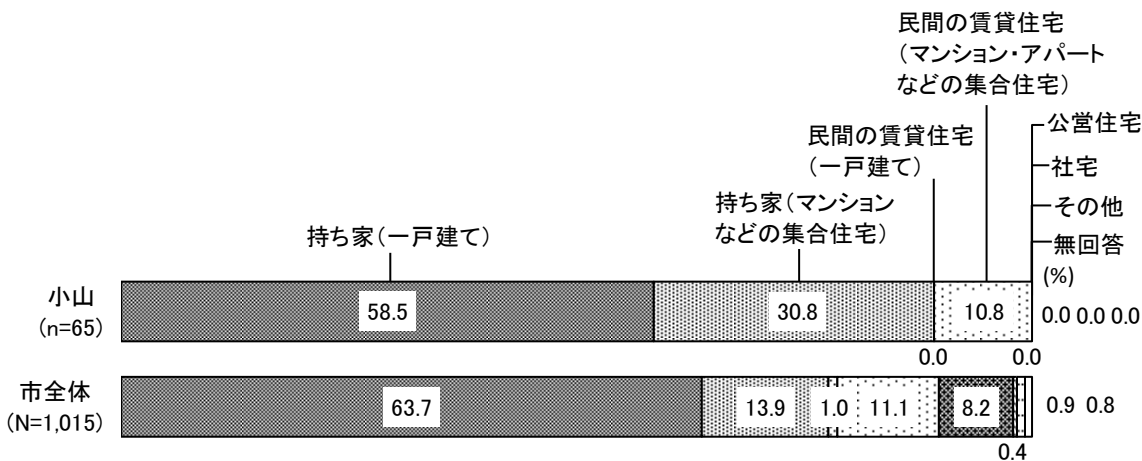
調査対象：18 歳以上の町田市内在住者 2,000 人
 調査時期：2020 年 2 月から 3 月

（1）基本属性

- 年齢は平均 54.7 歳（全体は 58.6 歳）、職業は就労していない人が 33.8％（全体は 43.8％）である。

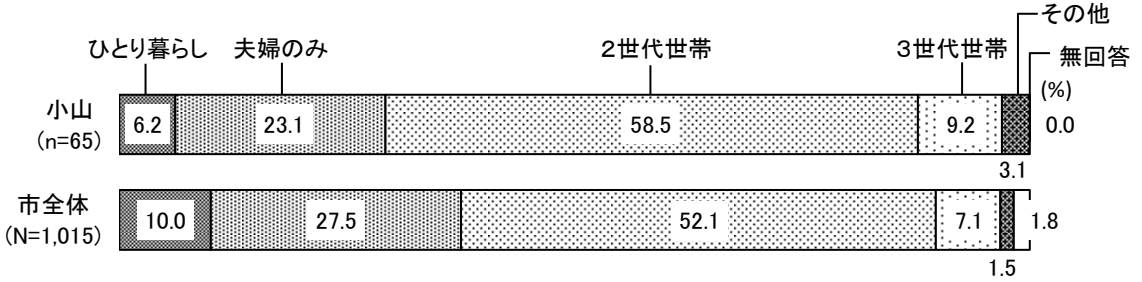
◆住まいの形態

- 住まいの形態は「持ち家（マンションなどの集合住宅）」の割合が 30.8％と全体と比べて高い。



◆家族構成

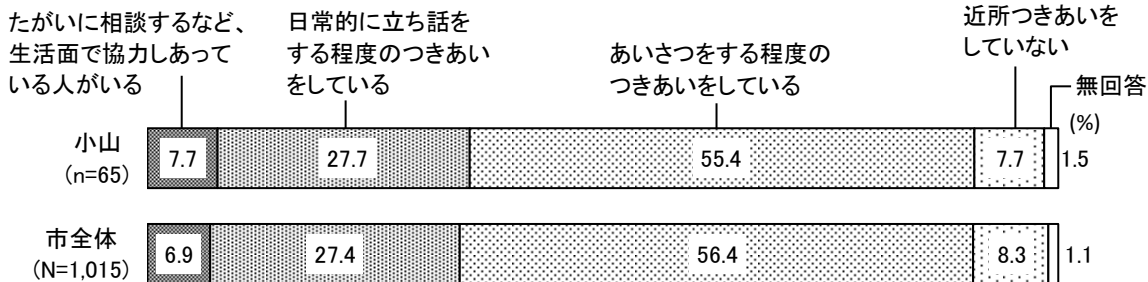
- 家族構成は「2世代世帯」、「3世代世帯」の割合が全体と比べて高い。



（2）地域での暮らし

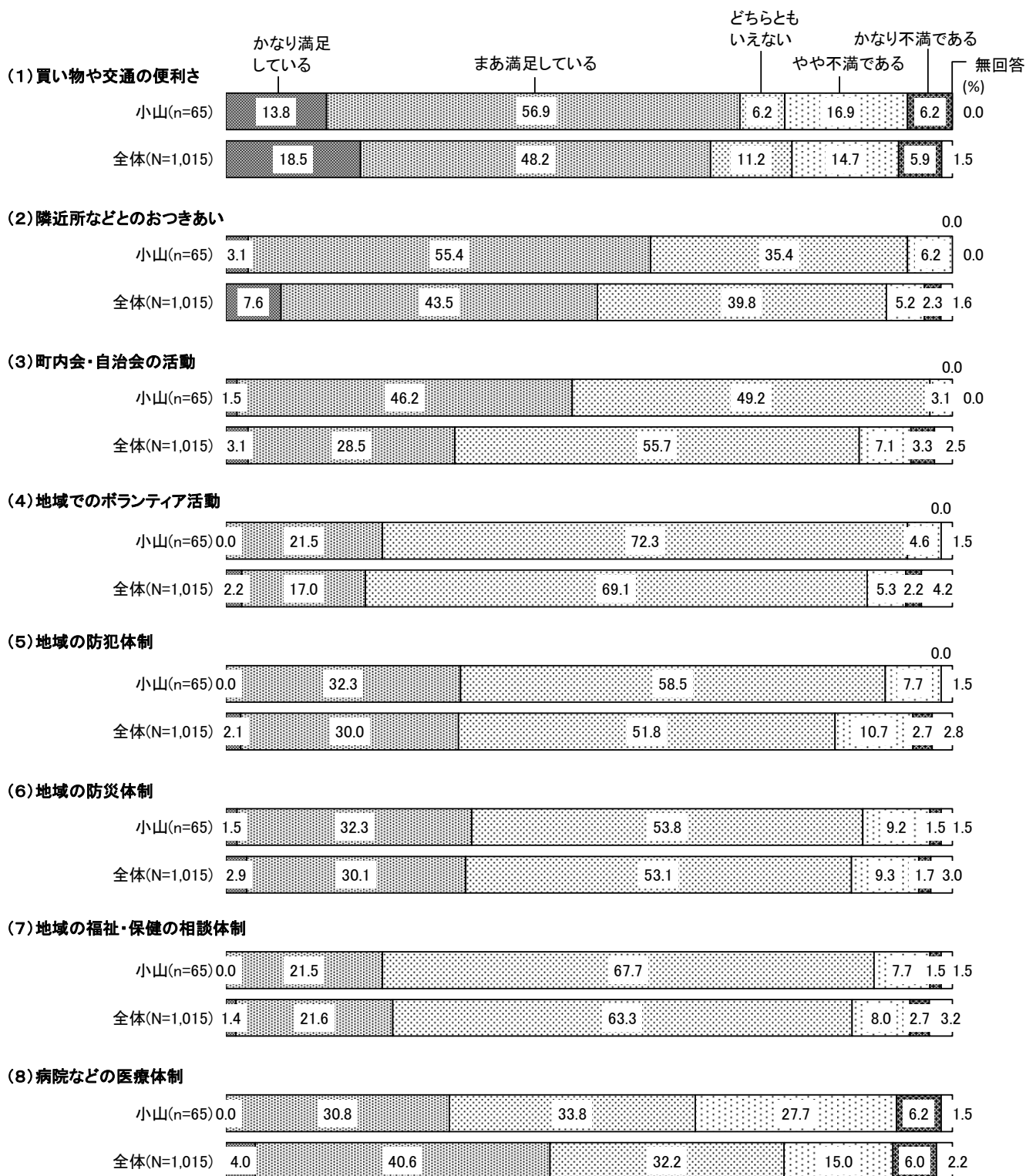
◆近所つきあいの程度

- 近所つきあいの程度は、「たがいに相談するなど、生活面で協力しあっている人がある」、「日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている」の割合が全体と比べて高い。



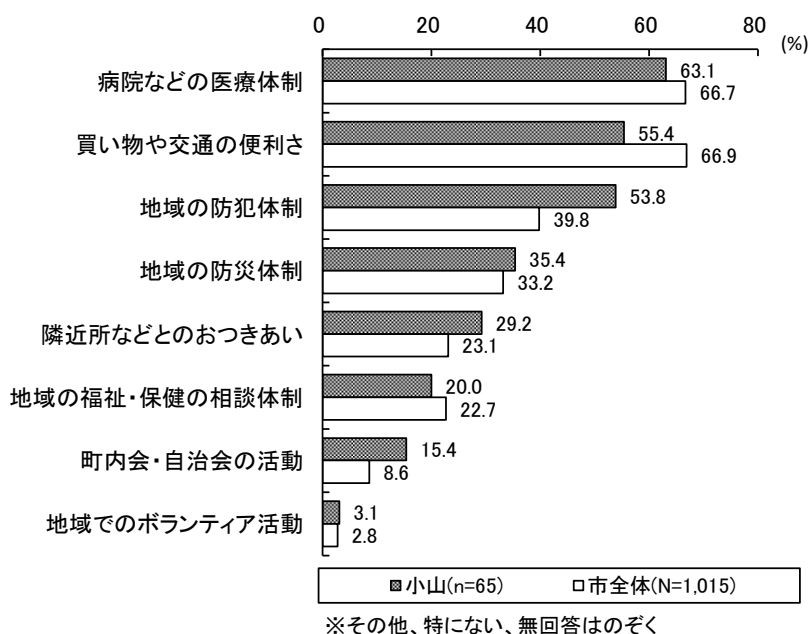
◆地域の暮らしやすさについての満足度

- ・ 地域の暮らしやすさについて、「かなり満足している」と「まあ満足している」を合計した割合（満足度）は、『隣近所などのおつきあい』、『町内会・自治会の活動』で高く、『地域でのボランティア活動』や『地域の福祉・保健の相談体制』、『病院などの医療体制』で低い。
- ・ 全体との比較では、『町内会・自治会の活動』が満足度で 10 ポイント高い一方、『病院などの医療体制』は 10 ポイント以上低い。



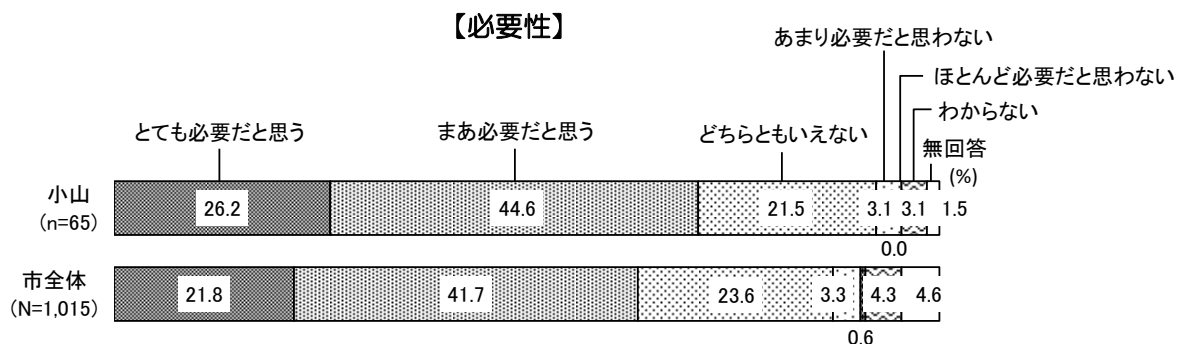
◆地域で安心して暮らしていくために重要なこと

- ・ 地域で安心して暮らしていくために重要なことは、「病院などの医療体制」が最も多く、「買い物や交通の便利さ」、「地域の防犯体制」が続いている。上位3位は全体と同様である。
- ・ 全体との比較では、「地域の防犯体制」が10ポイント高い一方、「買い物や交通の便利さ」は10ポイント以上低い。

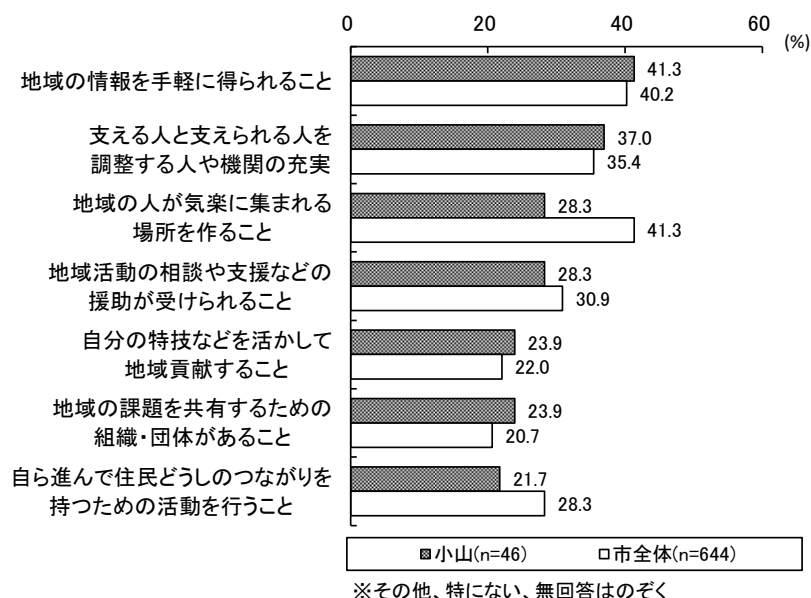


◆住民同士の自主的な協力関係の必要性、協力関係をつくるために必要なこと

- ・ 住民同士の自主的な協力関係の必要性について、「とても必要だと思う」と「まあ必要だと思う」と回答した人の合計は70.8%であり、全体を7.3ポイント上回っている。また、必要だと思うと回答した人に必要なことをたずねたところ、「地域の情報を手軽に得られること」が最も多く、次いで「支える人と支えられる人を調整する人や機関の充実」が続いている。全体1位の「地域の人々が気軽に集まれる場所を作ること」は同率3位となっており、全体を13.0ポイント下回っている。



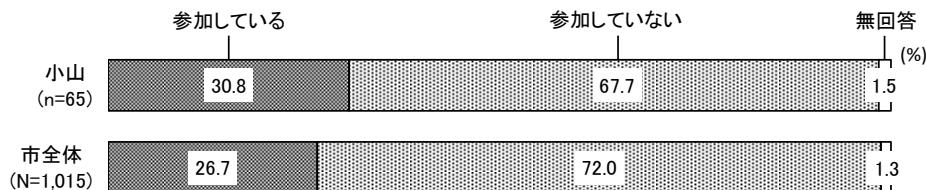
【協力関係をつくるために必要なこと】＜必要だと思う人＞



(3) 地域活動・ボランティア活動

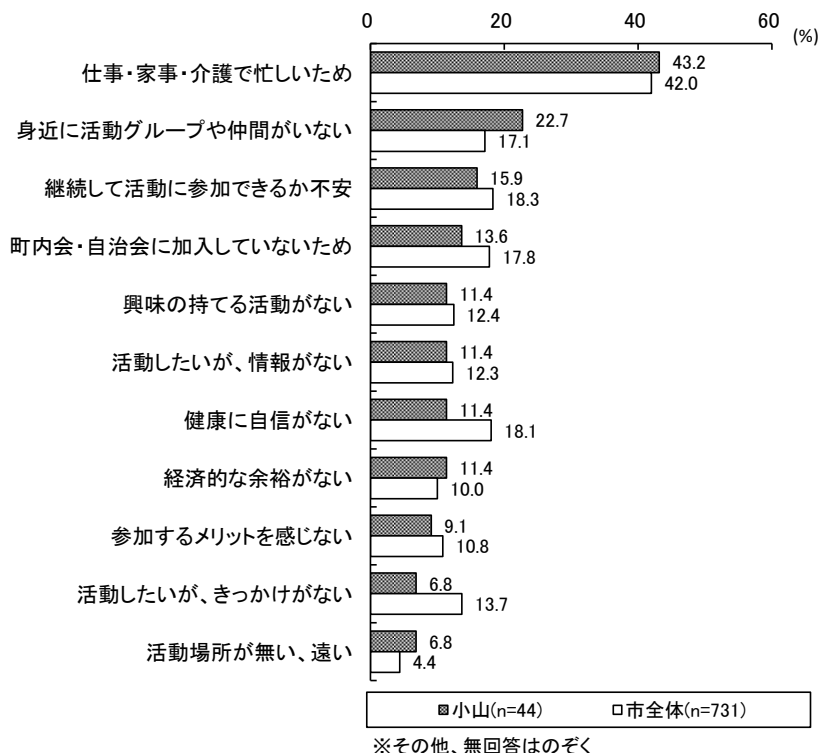
◆地域活動・ボランティア活動への参加状況

- 地域活動・ボランティア活動へ「参加している」の割合が 30.8%と全体と比べて 4.1 ポイント高い。



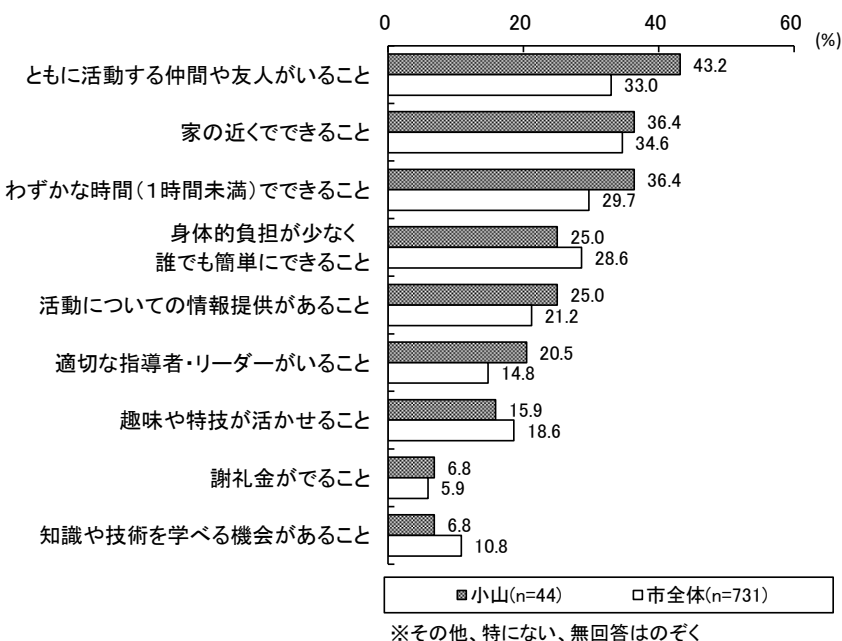
◆地域活動・ボランティア活動に参加していない理由<参加していない人>

- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人にその理由をたずねたところ、「仕事・家事・介護で忙しいため」が最も多くなっている。
- 全体との比較では、「身近に活動グループや仲間がいない」は全体より5ポイント以上高くなっているが、「健康に自信がない」や「活動したいがきっかけがない」は5ポイント以上低い。



◆地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる条件<参加していない人>

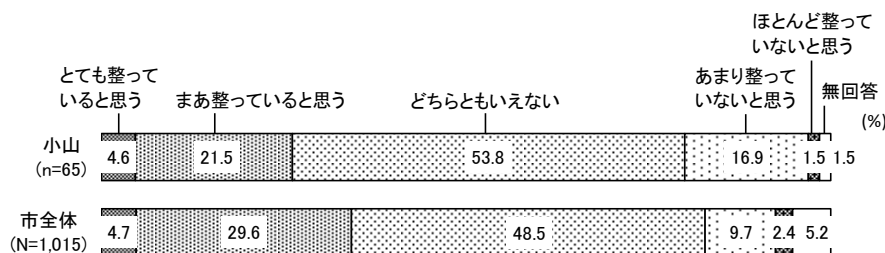
- 地域活動・ボランティア活動に参加していない人に参加しやすくなる条件をたずねたところ、「ともに活動する仲間や友人がいること」が最も多く、「家の近くでできること」、「わずかな時間（1時間未満）でできること」が続いている。
- 「ともに活動する仲間や友人がいること」は全体より10ポイント以上高くなっている。



(4) 福祉サービス、福祉施策

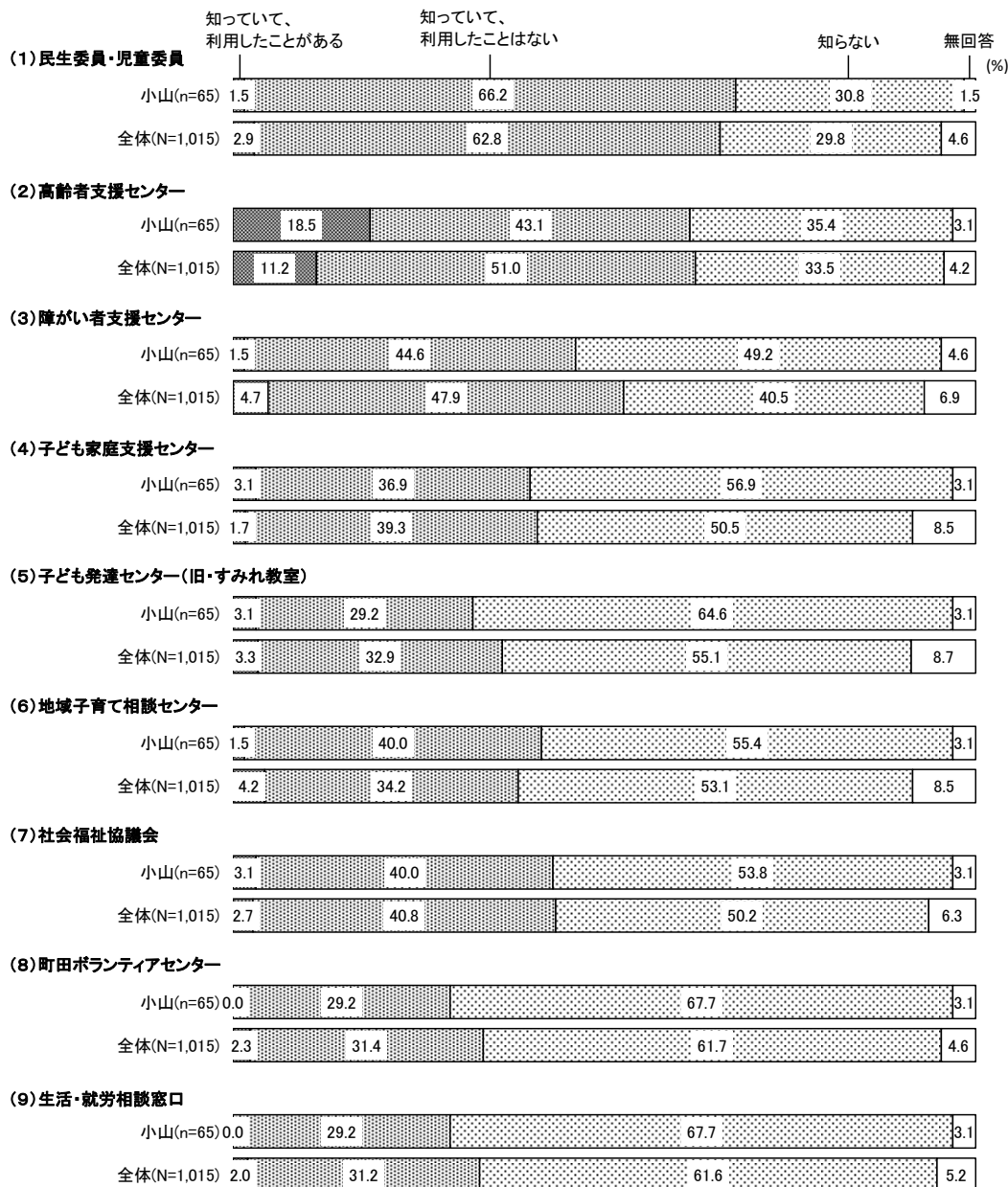
◆町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況

- 町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、「とても整っていると思う」と「まあ整っていると思う」を合計した割合が26.1%で、全体に比べてその割合が8.2ポイント低くなっている。



◆福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度・利用状況

- 福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度（「知っていて利用したことがある」と「知っていて、利用したことがない」の合計）は、『民生委員・児童委員』、『高齢者支援センター』では6割を超え、『障がい者支援センター』では4割を超えているが、『生活・就労相談窓口』では2割台となっている。
- 全体と比較すると、『障害者支援センター』は、全体を5ポイント以上下回っている。



7. タウンミーティング（地区別意見交換会）の結果

（１）実施目的・参加人数・主な参加者

<実施目的>

- 2022年4月から始まる新たな市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定に向けて、2019年に町内会・自治会や地区協議会を対象の中心として、市内10地区でタウンミーティング（地区別意見交換会）を実施し、それぞれの地域にお住まいの方と一緒に、住んで良かったと思えるような、まちだの未来を考えました。

<参加人数（グループ数）>

- 41人（7グループ）

<主な参加者>

- 町内会・自治会、民生児童委員、青少年健全育成委員、子育て中の方（お子様連れの父母）。

（２）住みたい（なりたい）まちの姿とご意見

① グループごとの話し合いから出た「住みたい（なりたい）まちの姿」

【A グループ】生涯を見守るまち

【B グループ】コンパクトで循環型のまち

【C グループ】世代も地域もボーダレスなまち

【D グループ】誰もがやりたいことができる人間味のあるまち

【E グループ】昔と今と未来が見えて生活環境が整った小山町

【F グループ】大人も子どもも居場所があるまち

【G グループ】人がつながり、自然が豊かで、みんなが安心して暮らせるまち

② タウンミーティングでいただいたご意見

<子ども・子育て支援>

- ・低学年の子ども気軽に通える子どもクラブがほしい。
- ・子どもどうして交流できる場がほしい。
- ・地域の集会所で子どもどうしが触れあえると良い。
- ・子ども達が遊べる緑、探検できるような所なくなった。
- ・子どもが勉強できるスペースがあると良い。
- ・子どもが育てやすい。住みやすい。
- ・小学生が集まれる場所があるといいと思う。

<多世代交流・つながり>

- ・市内で高齢者や若年者が循環できると良い。
- ・皆のつながりがあると良い。
- ・多世代、多様な人と交流できる場。
- ・地域の住民どうしの顔が見える関係があると良い。

<居場所>

- ・公園や校庭が自由に使えると良い（ボール、花火）。
- ・大人の居場所があると良い（ラジオ体操とか）。

<生活環境>

- ・バス網がもっと増えると良い。
- ・バスがもっと便利になるといい。
- ・高齢者にやさしい交通の便。
- ・すぐ近くにある病院、買い物。
- ・駅前に大きな公園があったらよい。
- ・自然に触れあえると良い。

<産業・経済>

- ・地元企業が少ない。
- ・仕事の条件で住まい決める。
- ・学生がアルバイトをする場所少ない。

<まちづくり>

- ・まちづくり＝人間づくり。
- ・企業誘致など働く場を。
- ・企業誘致またはベッドタウン。

<その他>

- ・ゆりかごから墓場まで揃うまち。
- ・コンパクトシティになると良い。
- ・地域の中で完結できると良い（仕事、買い物）。
- ・便利なものが集約されていると良い。
- ・行政手続、行政間でできたら。
- ・シェアできる小型カーが地域にあると良い。
- ・有事の際、助け合えるコミュニティが必要。
- ・若い世代の意見がもっと出ればいい。
- ・公共Wi-Fi。
- ・町田のどこに何の施設があるのかアクセスの方法などが、パッと一覧できるとよい。

（出典：各種ワークショップ等の取組み状況報告より）

URL：https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/sinoikeikau/machida_miraizukuri_vision2040/kyodokento20201101.html

8. 過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）

- ・ 2021 年度の地区別懇談会の開催にあたり（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 2022 年度に延期）、参加希望者の方に事前アンケートとして、過去5年間で感じる地域の良い変化（強み）・悪い変化（弱み）をたずねました。
- ・ 以下は、回答いただいたご意見を表現はそのまま、主な意見を抜粋して掲載しています。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
人(世帯)	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 若い世代が増えた。 ・ 男性のひとり暮らしが増えたが、家事などをしっかりやっているように感じる。 ・ 身体作りに励む老人が増えた。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 総人口が増えている。 ・ 子どもが増えた。 ・ 外遊びをする親子が増えた。 ・ 小さなお子さんを持つ子育て世代が増えた。 ・ 人口が増え、子どもも若い親世代も多く、活性化はされている。 ・ 当方、下肢障害者で、車いすを常時使ってますが、お声掛けいただくケースが、少しだけ、増えた気がします。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ マンションに住んでいる方の高齢化が徐々に進行して、介護相談の件数が増えている。 ・ この2年間にコロナの影響もあり、「フレイル化」「認知症状の悪化」がみられる。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 変わる事、新しいことを受け入れる柔軟な方がほとんどだが、中には受け入れてもらえないことがある。 ・ マンションが増えている分、個人と個人の交流は減っているし、良くも悪くも人に無関心な人が多いような気がします。(挨拶しない等) ・ コロナ禍もあり、孤独を感じる母親が増えた。
つながり、意識	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 以前より介助の申し出が増えた気がする <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ コロナ禍においても積極的に地域のつながりや安全を維持する意識が高い。 ・ 地域の繋がりが強いと感じます。 ・ 子育て世帯が多くなり、サロンも活気があり、交流も盛んになった。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 知人でも言葉をかけなくなった。あいさつをしない。 ・ コロナ禍で、互いが交流しにくくなり、疑心暗鬼になっているように感じる。 ・ いじめが老人の間にもあるのに驚いている。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 地域のお祭りが減り、多世代でつながれる機会がかなり減る。
活動	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ これまで小山地区になかった生活支援サービス(ワンコインでできるようなちよこっとサービスのようなタイプの活動)ができた ・ ここのところ夏の盆踊りは中止されているが、今のところ今後も盆踊り大会は続けられるので、地域のコミュニケーションは保たれている <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 子ども食堂やサロンなど、地域の方々が主宰する取組みが増えてきている。 ・ 地域に根付いた活動が増えたように感じる。 ・ 子ども食堂ができた。 ・ 地域活動やり方次第で高いポテンシャルがあるはず。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 地域のこども会が休み、解散となり、こども達のコミュニケーションの場が少なくなった。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 高齢者については、「担い手」となってくれる方が高齢化しており、代替わりが進まないことが大きな課題となっている。(今の前期高齢者が地域活動につながらない。) ・ 地域活動を名乗る方が SNS で、匿名でメッセージをする。 ・ コロナ禍で自治会や地域交流が大幅に減少した。 ・ 時勢的に致し方ないが、地域活性化の行動はなかなか出来ていないのでは。 ・ 不登校の増加など拾えていない声も多いと感じる。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
場所(施設)	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 子どもクラブ、放課後デイサービス、こども食堂などのサービスが整ってきている。 ・ 三ツ目山冒険遊び場ができた。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 小山子どもクラブさんも出来て、子育てをするにはとても良い環境で、良い変化かと思う。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 住民が増えているが図書館等ない。
まち・交通	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 多摩境通りを主体とした学校、流通等の活性化が顕著にみられる。 ・ 交番建設の予定が立った(多摩境駅前の交番)。 ・ 防犯カメラが1台設置された。 ・ 小山地区は街としてできあがった感じがする。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 多摩境地区が住みやすい街として認知されてきた。 ・ 障害児放課後デイサービスができた。 ・ 保育園が増えた。 ・ 道の舗装状態が良くなり、以前よりも、通りやすい道が増えた気がします。	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 路上へのゴミ放置、すいからポイ捨て。 ・ 週末の交通渋滞(多摩境地区)。 ・ 人口が多くなったため、幹線道路(町田街道・多摩境道路)の危険性が増した。 ・ 大規模集合住宅(マンション)が増えた結果、多摩境通りの交通量が更に増えた。 ・ 多摩境通りの交通量が増え、事故不安(車、自転車)。 ・ 駅前にこれといった商業施設がない。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 慢性的に渋滞。